

令和 6 年度第 3 回市民力推進委員会 会議録

日 時 令和 6 年 11 月 14 日（木）18：30～21：00
場 所 長崎市役所 7 階 記者会見室兼中会議室
出席者 委 員 長 山口純哉
委 員
岩本諭、梅川健治、江口忠宏、大野俊一、貴戸淳二、林田英昭、稗園健史、
平山智秀、平山美香、松尾博之、水畑順作、宮崎真奈美、吉田伸吾（敬称略）
事 務 局 印藤真哉、川口育美、野中誉仁、溝口紗代、原田宏子、御厨良雄

次 第

議題 1 第 2 回市民力推進委員会の振り返り

議題 2 経済的支援の見直し案について

議題 3 来年度事業について

事務連絡等

令和6年度第3回 市民力推進委員会会議概要

日 時 令和6年11月14日（水）18：30～21：00

場 所 長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室

出席者

市民力推進委員会：

山口純哉委員長

岩本諭委員、梅川健治委員、江口忠宏委員、大野俊一委員、貴戸淳二委員、林田英昭委員、
稗園健史委員、平山智秀委員、平山美香委員、松尾博之委員、水畑順作委員、宮崎真奈美委員、
吉田伸吾委員

事務局：印藤市民協働推進室長、川口係長、野中、溝口、原田、御厨

－ 会議概要 －

議題1 第2回市民力推進委員会の振り返り

議題2 経済的支援の見直し案について

資料に基づき事務局から説明

【委員長】

事務局からの説明について、各グループでご意見・質問等出していただき、全体に共有していただきたい。

各グループに分かれて話し合い

グループ1

- ・ジャンプ補助金は、民間と比べると労力がかかる。目的によって使い分ければいい。
- ・助成金等を申請する前に、事業の目的や何をやりたいのか、頭の整理を行うためにも市民活動センターや市役所へ相談するとどのような補助金を活用すればいいか分かりやすくなる。
- ・以前と比べるとボランティアの熱量が落ちている。
- ・地域高齢化が進んでいるが、地元の中学生は熱心に地域活動に参加してくれる。
大人が中学生の目線に合わせたサポートが大事。
- ・1回の補助で成長を望むのは難しいのでは。市が考える補助金の目的は何なのか。
- ・市やセンターの職員が積極的に顔を出し、どんどんアウトリーチしていくことも大事ではないか。

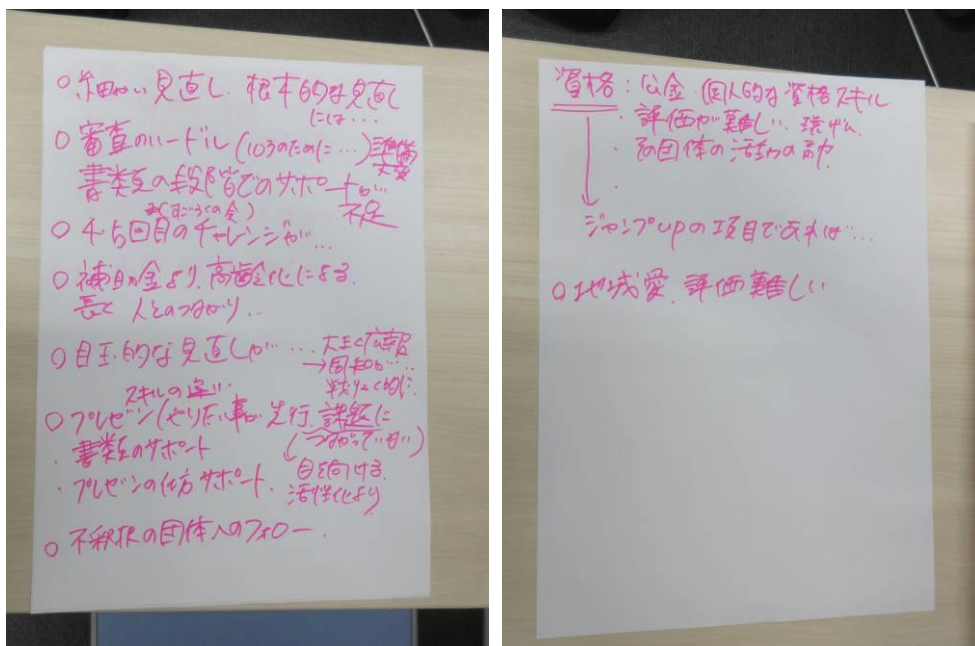
地域の高齢化が進んでいる。
 中学生は**熱心**→関わり深いところ。
 大人がサポート×地域への取り組み。
 一回の補助でジャンプ**難しい**
 ↓**継続することで成長する**
 ↓**そもそも何を狙いとしているのか？**
 高校生：同じ目線かどうかな？

ジャンプもった(久しぶり)
 民間と比べて外に広げること。
 補助率(自己負担)の感じ方色々。
 目的に応じて使い分けがよいこと。
 →申請前の整理の支援、頭打ち
 若者たちへ実感してもらえる仕組みを
 →やりがいを持ってできる環境づくり
 見直ししてみてもいいこと。
 Vの熱量人。でも大きくして
 意欲が底上げ

市センターの顔が見えれば
 やれそう。(アウトリーチ大事)

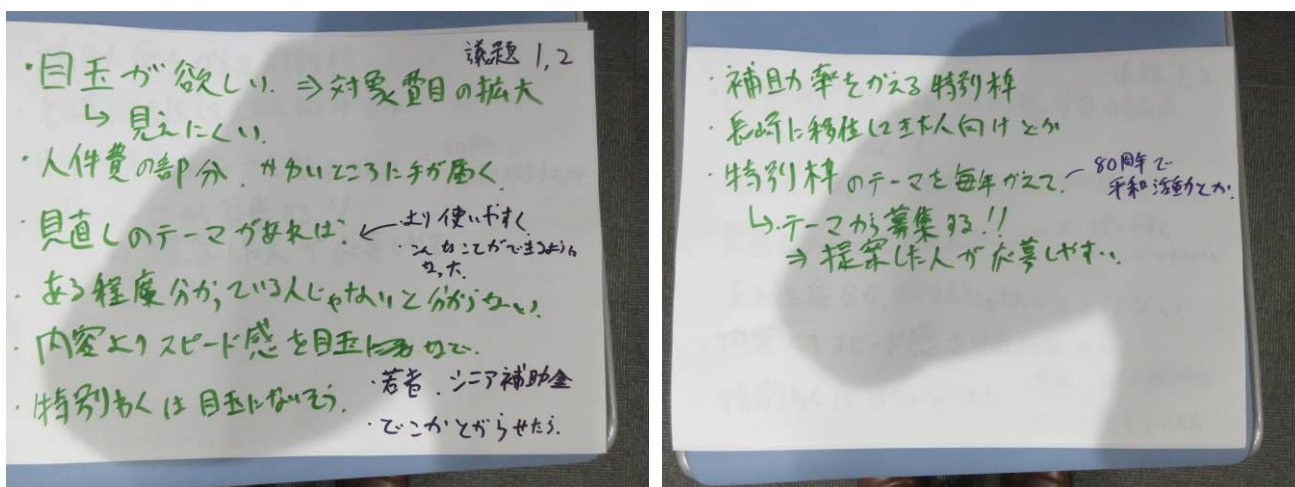
グループ2

- ・全体的に細かい見直しになっており、根本的な見直しにはつながらないのでは。
 なにか目玉があれば団体への周知もしやすい。
- ・審査会に向けた準備が大変。書類作成団体でのサポートや、プレゼンテーションについてのサポートも不足しているのではないかな。
- ・審査会には、かなりの労力を使って準備をしており、不採択であった場合は心理的にも落ち込むため、その後の団体へのフォローをしっかりとしてほしい。
- ・資格取得については、様々な資格があるなかで公金を使って資格とることが団体の活動にどのように還元されるのか。資格取得をすることで団体の活動の幅がどのように広がるのか適切に判断する必要がある。
- ・活動がジャンプアップできるような資格であればいいのではないかな。
- ・地域愛については、評価が難しい。



グループ3

- ・補助金の見直しについて、目玉が欲しい。
- ・補助金の特別枠については、目玉になりえるものではないか。
若者向けであったりシニア向けであったり、何かとがった対象だといいいのでは。
- ・特別枠のテーマについては、毎年公募でテーマを決めるような工夫をすると、提案した人からの応募がしやく活用されやすくなるのではないか。



【委員長】

事務局からの説明を踏まえ、皆さんからの追加でご意見をいただいた。他に何かあればいただきたい。

【委員】

現在、長崎伝習所の若者まちづくりチャレンジ補助金を学生に薦めているが、動きが鈍い。補助金を活用してどのような事業ができるのか成功事例のようなものがあれば、もう少しイメージしやすくなると思う。

議題3 来年度事業について

【委員長】

議題3 来年度事業についてということで、前回皆さんから意見をいただいたところだが、現在の整備状況について事務局から説明をお願いしたい。

資料に基づき事務局から説明

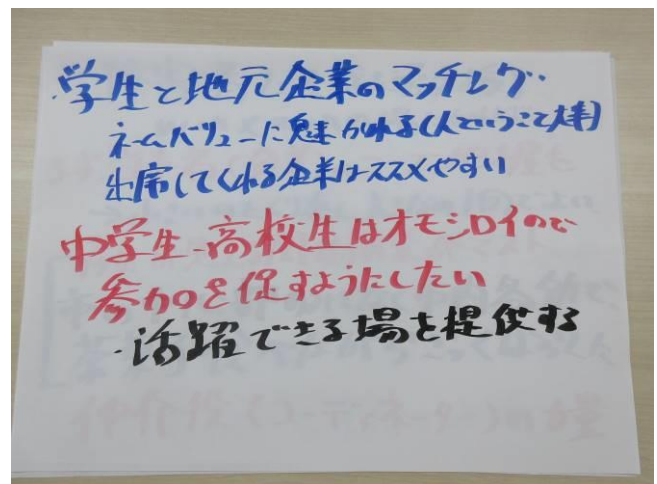
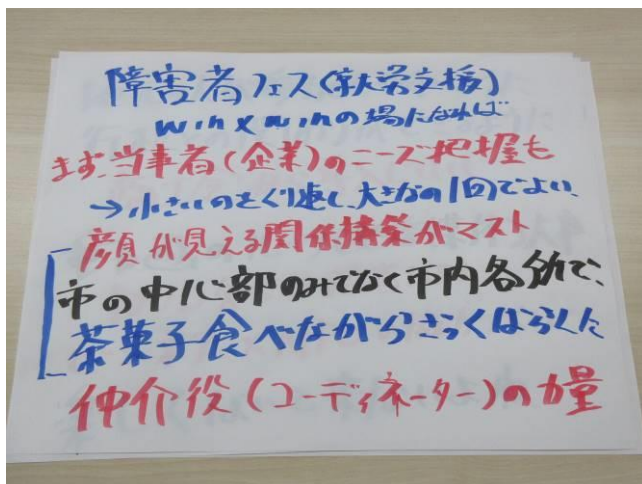
【委員長】

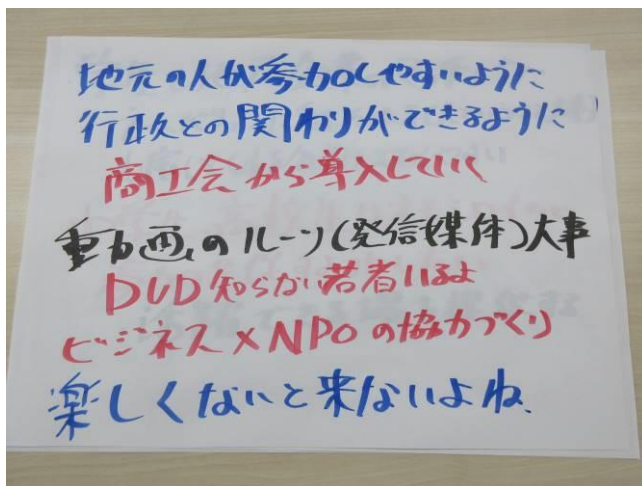
事務局からの説明をいただいたが、まだ大枠が出来ている程度だと思うので、自由な意見をいただいて、どういうマッチングイベントであればみなさんの活動をよくできるのかアイデアをいただければと思う。各グループで話し合ってもらい、後から共有していただきたい。

各グループに分かれて話し合い

グループ1

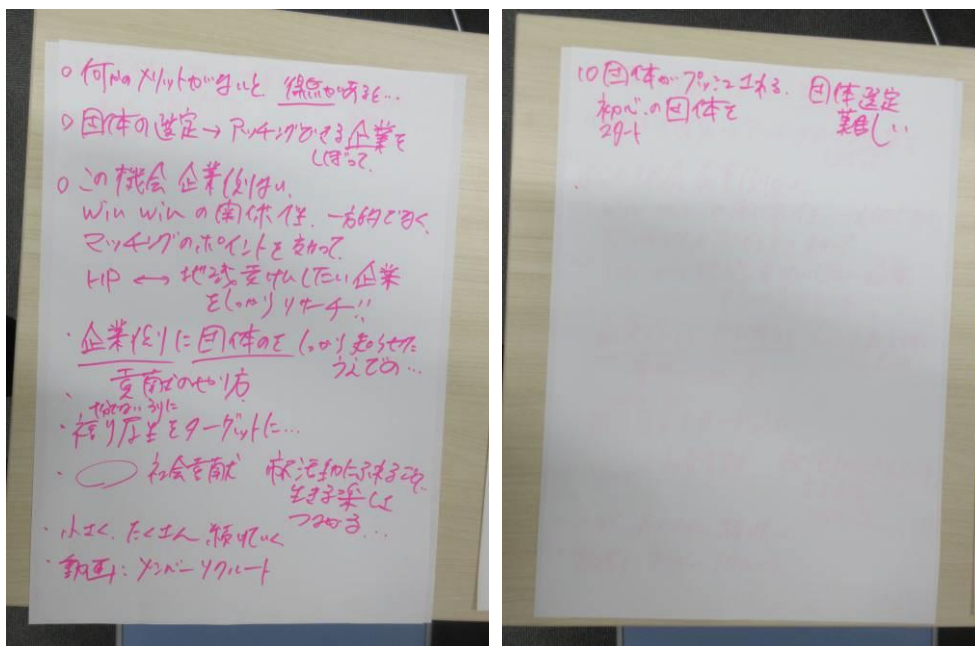
- ・企業にもメリットがないと参加してもらえない。まずは企業のニーズ把握が必要では。
- ・1回だけでは成功する分らないため、小規模イベントを数回行い、顔を覚えてもらうことで安心感が生まれる。
- ・将来的に地域を支える自覚を持ってもらうためにも、中高生や大学生を呼ぶのもいいのではないのか。ネームバリューにひかれやすい学生の流出を引き留める側面があつていいのではないか。
- ・動画に関しては発信媒体が重要。いろんなツールを活用してほしい。





グループ2

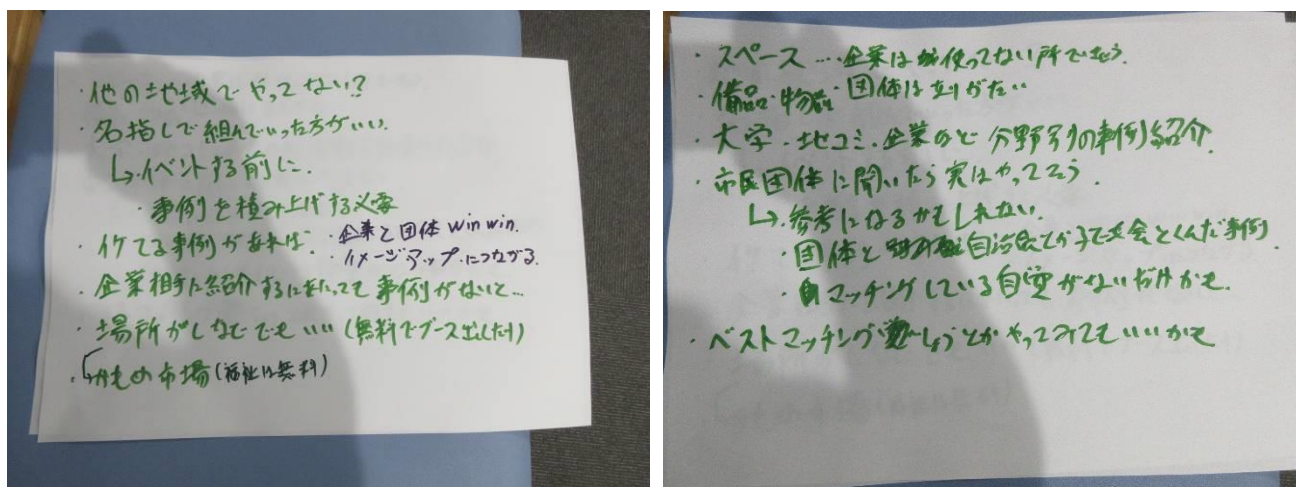
- ・企業へ参加してもらえるためには、企業側にもメリットがないといけない。
- ・企業は市民活動団体を知らないという前提で、こういった社会課題の解決に向けて活動しているのか、企業側にしっかりお伝えすることが重要。
- ・一方的ではなく win-win の関係性になるように。
- ・社会貢献について企業側の知識が十分ではない場合もあるので、企業側としても市民活動を知ることと、生きる楽しさなどにつながる部分もありメリットはあるものと思う。
- ・動画で紹介する団体については、10 団体ということでその団体がプッシュされることになる。できるだけ初心の団体を選ぶなど、団体の選定は慎重に行ってほしい。



グループ3

- ・マッチングのイベントについては同様の事例を別の地域でもやっているのではないかな。イベントを開催する前に事例を調べ、こういったところで成功したのか、失敗したのかななどをまず調べるべきではないか。
- ・最初からイベントを開催するのは難しいため、まずは企業等と団体それぞれ指名しマッチングすることで事例を蓄えていく必要があるのではないかな。
- ・企業と団体 win-win になるような事例がないと紹介も難しい。
- ・企業として使っていない備品や物品を貸し出すだけでも団体はありがたい。

- ・大学や地コミ、企業などそれぞれの分野別事例を紹介するのもいいのではないかな。
- ・実は把握していないだけで団体と企業等との協働事例はすでにあるのではないかな。団体自身が協働の自覚がないだけの可能性もある。
- ・協働のマッチングの事例がたまってくれば、ベストマッチング賞などを検討しても面白い。



【委員長】

3グループから発表をいただいた。どこにも共通するのは、信頼関係をいかに作っていくかということで、回数やお互いのプロフィールが分かっているかなどいろいろなことがあるかと思うが、今回出た意見は事務局の方で整理していただきたい。他に意見があればいただきたい。

【委員】

マッチングのイベントを行う際には、業種（例えば医療業種とか）で分けしていった方が参加する企業も分かりやすい。また、どういった団体が参加してくれるかをしっかり把握し、どのような企業としたらよいか意見を集中していった行い、いくつか小さい業種で何回かやった方が良いのではないかなと思う。

【事務局】

これまでのみなさんのご意見から、就職説明会のようなイベントを1回やってもうまいかない。イベントとするには、無理があり、根回しも必要だが、企業側のニーズも把握できておらず、事例も研究も足りていない中で、来年2月に実施するというのは無理があるなと感じている。

企業へのニーズ調査については、必ずしなければならないと考えており、4月から調査を開始しようと考えているところだった。実際に大きなマッチングイベントを行い、誰も集まらない、もしくは、集まったとしても動員でという結果であれば、2回目の開催はなくなってしまう。小さいイベントを（例：業種別・地域別・テーマ別）組み立てて、成功事例を積み重ねていく。その協働マッチング事例を積み重ねていき、企業側も具体的にイメージできるように準備を進めていきたい。

また当室は企業と協働には取り組めておらず、また、地域活動に協力したい団体の一覧を市民活動センターの前指定管理者が作成していたが、ほとんど活用されていない実態もある。そういったものを地道に積み上げていって、どんな企業が興味を持ってくるかという調査もしながらあわてないで1歩ずつ進んでいくマッチングにするという理解でよろしいか。地道に東西南北の地域や、もっと小さい単位で実績を作っていき、3つ4つ集まってきたら、マッチングイベントを実施するといったイメージで動いていこうと思う。みなさんにも企業の紹介等ご協力いただければと思う。

【委員長】

今の話は、調査を調査じゃないようにした方が良いと思う。例えば、東長崎の商工会で主だった企業に集まっていたら、企業向けの公開インタビューのような形で、市民活動との関係はどうなの？といった問いをかけ、そこに市民活動団体にも一緒に見てもらってお互いの理解を深めていく。新しい交流の場を１個１個細かく立ちあげていくと大変な話になってしまうため、職種別や地域別でやってみて、そこに団体さんに来てもらう形であればよいのではと思う。

【事務局】

これまで何もしていなかったため、新しく動き出すという１年にしないといけない。商工会とか業種、商工会議所などと連携して。

【委員長】

ターゲットとなる企業があれば、その市民活動団体の集まりやイベントも含めて全部ご案内して、ある程度関係を作っていく。じっくり戦略的にやっていくというのは三本目の議題で出てきた意見だともうので、その辺もぜひ考えていただきたい。

【委員長】

みなさんからマッチングイベントについてご意見をいただいた。これからマッチングイベントについては、事務局の方で検討して来年度予算に計上されるようになるかと思う

【事務局】

今回の話を受け、大きなイベントはできないため、会議室の費用であったりその他費用について検討したい。

【委員長】

その過程で例えば大学であればどうか、事務局から質問があるかと思う。その際はぜひ、皆様にもご協力いただきたい。